

# 手足が震える「本態性振戦」

## 超音波治療で症状改善

# からだ

手足が震える原因不明の病気「本態性振戦」に対し、大西脳神経外科病院（明石市）が超音波を頭に当てる治療の臨床研究をしている。脳の手術などに比べ、体への負担は軽いという。既に60代の男性2人が治療を受け、震えを抑えることに成功した。（森 信弘）

### 明石の脳神経外科病院 臨床研究

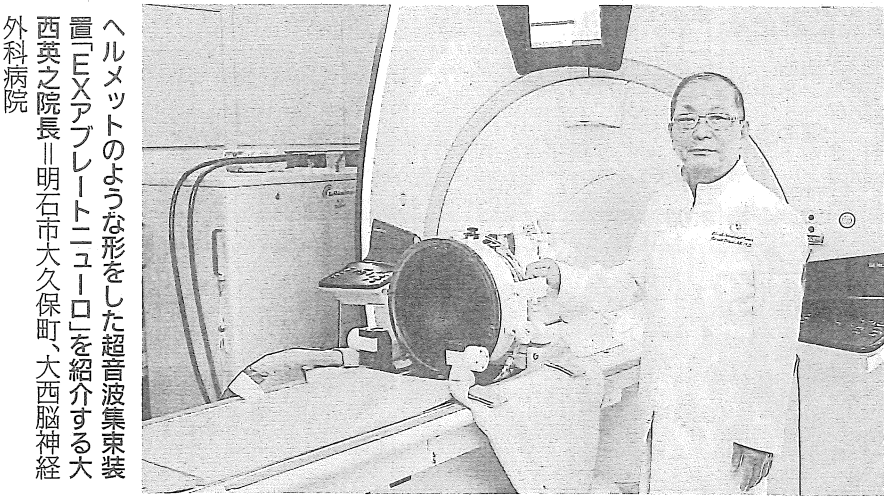
使用している機器は、イスラエルで開発された超音波集束装置「EXAフレートニユーロ」。この臨床研究は全国で行われており、同院は5カ所目。兵庫県内では初めてになる。

本態性振戦の患者は人前で食事ができず、ひきこもりがちになることもある。大西英之院長（69）は「治療後は2人とも晴れ晴れとした笑顔で、表情がすっかり変わった」と話す。

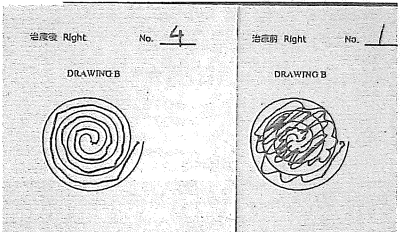
震えは、脳内の知覚神経が集まる視床の一部を凝固させると収まるとされる。脳に電極を入れて刺激を与え続ける方法などもあるが、費用が高く体への負担も大きいため積極的にには行われてこなかった。

超音波による治療では、患者はベッドに寝てヘルメットのような形をした装置に頭を入れる。やけどをしないよう髪の毛は剃る必要があるという。

微弱な超音波を1カ所に集めて熱を出し、視床の一部を凝固させる。それによって震えの増幅経路を遮断する。磁気共鳴画



ヘルメットのような形をした超音波集束装置「EXAフレートニユーロ」を紹介する大西英之院長。明石市大久保町、大西脳神経外科病院



患者が描いた渦巻き。治療前（右）に比べ治療後（左）は大きく改善した

## 全国5カ所目、患者負担少なく

像装置（MRI）と組み合わせることで治療部分を特定し、温度などを確認しながら進めることができる。

超音波を当てるのは十数秒間ずつ。合間には循環させた水で頭を冷やし、最終的に温度を50〜60度まで上げる。2人の治療は、渦巻きを描くテストをして効果を確認しながら進めた。大西院長は「放射線と違って何度も当てられる。状況を確認しながら調整できるメリットは大きい」と話す。

3日程度の入院で終了。渦巻きを描いたり、コップの水を入れ替えたりする作業が震えずにできるようになった。右手に症状があり、飲み薬は効果がなかったという男性は、4年ぶりに震えがなくなったという。

今のところ、2人とも目立った副作用はない。同院は12月までに計10例の治療を予定。大西院長は「本態性振戦の認知度は低いのが、深刻に悩んでいる患者は多いので継続的に治療したい」と話す。

大西脳神経外科病院 ☎ 078-0300-12000

**本態性振戦** 手足が震える運動障害の一種。加齢に伴う病気だが、若年で発症することもある。パーキンソン病は安静時に震えるのに対し、文字を書いたり食事をしたりしようとするとき刻みに震えることが多い。ひどくなると、運転や食事などの日常動作が困難になる。気にしすぎて震えが悪化するケースもある。